

2022 年度

自己評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

1 教育理念・目的・人材育成像

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	A	学園の建学の精神のもと、学校の特性を踏まえた理念、目的、育成人材像を定めている。	
② 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	A	就職先、校外研修先等にパンフレットなどを送付し、オープンキャンパスや入試説明会等においても学校の理念や特色を説明している。	入学式やオープンキャンパスなど、様々な機会を通じて周知しているが、今後は日頃の学生生活や業務においても理念を意識できる取り組みを考えていきたい。
③ 学校における職業教育その他の教育指導の特色は明確か	A		
④ 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A	企業との面談を通して、業界及び社会のニーズを認識するよう努めている。	地域の特色を活かした学校として社会貢献や地域貢献を行い、高校卒業生のみならず、社会人も広く受け入れ、学び直しの機会を提供できるように教育環境の体制を見直していく。
⑤ 各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	A		

2 学校運営

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	A	教育理念に基づき運営方針を策定している。 職員会議等で方針を明確にしている。	
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A	年度当初に、運営方針を踏まえた事業計画を策定している。	
③ 運営組織や意思決定機能は明確化されていて、有効に機能しているか	A	校務分掌で役割担当を明確にしている。 様々な問題や課題については運営委員会や関連の委員会等において協議・解決し、職員会議で周知していくという組織的な体制が確立されている。	
④ 人事・給与に関する規定等は整備されているか	A	就業規則により整備されている。	
⑤ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A	決裁方法を明確にし、それに則って決定している。	
⑥ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	B	組織化、体制化された対応が不足している	コンプライアンスの文書化、職員研修の実施等、共通の対応ができるよう整備に努める。
⑦ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	A	ホームページ、フェイスブックに加え、Instagram等のSNSにおいて授業内容や行事の様子を公開している。	今後も公開内容、および公開方法の充実に努めていく。
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	B	デジタル化の広がりについていないところがある。	業務システムの導入を検討し、効率化を一層進めていく。

3 教育活動

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A	養成施設の設置基準を満たす教育課程を基本とし、本校の教育目標に沿った科目配置について年1回見直しをしている。 科目ごとの進行については、担当講師が年間授業予定表を作成し、それに沿った授業を行っている。	教科間の連携を進め、学生にとって効果的な学習となるよう工夫していく。
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	A	教育到達レベルを明確にし、十分な学習時間の確保に努めている。 カリキュラムは修業年限に対応し、体系的に編成されている。	社会環境の変化にも柔軟に対応できるよう努める。
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A		
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	A	教育課程編成委員会を設置することにより、関連分野の企業及び有識者から意見を取り入れカリキュラム編成に活用している。就職指導、校外研修等でいただいた意見も積極的に取り入れていく。	今後も組織的に意見を取り入れていく体制を整える。
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等の連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	A		
⑥ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	A	校外実習を行い外部関係者より評価をいただいている。	

⑦ 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A	各学科カリキュラムに組み込み体系的に実施している。	
⑧ 授業評価の実施・評価体制があるか	A	各期に授業アンケートを実施し、その評価をもとに授業の改善を図っている	
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	A	単位認定、進級卒業判定の基準を明確にし、入学時オリエンテーションにて学生に周知している。進級、卒業については、年度ごとに会議を開き、基準に沿って判定している。単位未修得になり得る可能性のある学生には、本人への指導・面談及び保護者への状況連絡も行っている。	
⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	A	各学科で資格取得に向けた対策授業等をカリキュラムに取り込み、体制を整えて指導に取り組んでいる。	
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	A	それぞれの専門分野について、有資格で経験豊富な教員を配置している。	
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員の確保に努めているか	A	各業界と連携し専門性の高い講師を派遣してもらう体制が整っている。	
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか	A	教員の指導力、資質向上につながるよう定期的に研修を実施している。	教員に必要な研修の継続に努める。
⑭ オンライン授業など社会環境の変化に対応した多様な教育形態が実施されているか	B	オンライン授業の実施や社会環境の変化に対応した取り組みを行っている。	多様化される教育形態に向けてさらなる環境づくりをしていく。

4 学生指導（私立専門学校等評価研究機構に記載有）

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 基本的な生活習慣の確立のための取組みが行われているか	A	日頃から積極的に指導徹底している。心配のある学生には、改善につながるよう一時的でなく継続的に指導している。	
② 学生・保護者からの相談体制が整備されているか	A	日々、学生の状況を把握し、こまめに声掛けする等相談しやすい環境を整えている。問題があれば保護者にも連絡できる体制を整備している。	
③ 通学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	A	近隣の駐車場の確保や学生会館を設置し、遠方からの学生の通学に便宜を図っている。学生に求人情報を公開し個別に就職指導をしている。	
④ 学生の安全管理のための取組等（災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある学生等への支援など）が行われているか	B	専門的な知識を持った方による、学生の心理面等のサポートは必要と感じる。	学生相談窓口の設置に向けて検討をしていく。

5 学修成果

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 就職率の向上が図られているか	B	<p>入学前のオープンキャンパス等より、進路選択について説明し、仕事に対する理解を深めるよう指導している。</p> <p>本人の意思を尊重した進路選択ができるよう、面談をくり返し行い就職率の向上を図っている。</p> <p>また、実社会において必要なマナーなどの研修を取り入れている。教員の指導力向上のためセミナーなどを実施している。</p>	<p>学生に対し、現状に合ったビジネスマナー等を学べる機会を取り入れていく。</p>
② 資格取得率の向上が図られているか	B	<p>各国家資格取得に向けて、日々の授業を中心に意識向上につながる取り組みを行っている。また、対策授業も継続的に行い、模試などを取り入れ学びを深め資格取得率向上を図っている。</p>	
③ 退学率の低減が図られているか	B	<p>退学者は昨年度より減少している。</p>	<p>今後も入学前より学校見学等を充実させ、将来に向けての目的意識を高く持てるように努める</p>
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	A	<p>卒業生については在校生との対話の機会を設けるなど、様々な機会を通じて学校とのコミュニケーションを図っている。</p>	<p>卒業後のキャリア形成、成長度合い、定着率等の情報収集に努め、カリキュラムに反映させ指導につなげる。</p>
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	A		

6 学生支援

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価	課題と今後の改善策
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A 入学時から就職を視野に入れ、職種を含めた説明も行っている。卒業年度には新学期から個々に面談を行い、就職活動を行えるように体制を作っている。校内で企業説明会を実施したり、オンラインでの説明会の際には場所を提供するなど、学生に情報が届くよう努めている。	履歴書作成のセミナーなど就職に必要な知識習得の機会を設け就職活動の強化を図っていく。
② 学生相談に関する体制は整備されているか	A 相談しやすい環境づくりに努めている。	
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	A 独自の奨学金制度はないが、オープンキャンパス等で公的な奨学金制度を紹介している。また、学費納入の相談は随時受付が出来る体制をとっており、各家庭の経済状況に合わせて期間を延長しての納入や分割納入を、相談・届出のうえで許可している。	
④ 学生の生活環境への支援は行われているか	A アルバイトの求人情報を提供している。入学説明会時に、アパート・駐車場情報などを学生に伝えている。学生会館を設置し、入館者には緊急時マニュアルや生活情報を伝えている。昼食は給食により適切な食生活を提供している。	

⑤ 学生の健康管理を担う組織体制があるか	A	年度初めに健康診断を行っている。再検査や要診断と判断された学生には受診をすすめている。 分野ごとに必要となる予防接種や、細菌検査を実施している。	
⑥ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	A	コンテストや検定試験に積極的に参加できるよう指導と支援を行っている。	学生の成長につながるよう支援体制を充実させる。
⑦ 卒業生への支援体制があるか	A	就職後の相談や再就職に対する支援を行っている。就職試験、国家試験受験者のうち、希望者には継続して指導を実施している。	卒業生からの意見も聞きながら、支援体制を整え、より一層フォローに努める
⑧ 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	B	個別の対応について実施しているが、今後は組織的なプログラムを検討していく。	救急救命士、製菓衛生師の再受験、管理栄養士試験に向けての対策支援などの強化に努める。
⑨ 保護者と適切に連携しているか	A	出席状況、生活態度、学業成績、体調等、情報共有に努めている。教育活動への協力や学校生活の改善等、必要な際には文書を発行して依頼している。	
⑩ 社会人入学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	B	社会人入学生を積極的に受け入れている。入学前は個別に入学相談ができる場を設けるなど、ニーズの把握に努めているため入学後の退学者も少ない。	今後も社会人入学生のニーズの把握に努める。
⑪ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	A	高校からの依頼を受け、講師派遣やインターシップの受け入れを積極的に行っている。	

7 教育環境

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	A	施設・設備は設置基準に準じている。 教育上必要な配慮をしている。	必要に応じて順次更新していく。
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A	学内の実習施設において引き続き管理を適切にし、体制を整えていく。 校外研修については十分な教育内容の提供を受けられる実習先を確保している。	
③ 防災に対する体制は整備されているか	A	防災マニュアルを作成した。周辺地域の防災マップ等を取り入れ、学生、職員の周知に努めている。	
④ 感染症など健康危機管理は実施されているか	A	危機管理委員会を設置し、組織的に行っている。感染症拡大防止のため、学生職員とも毎日検温のうえ体調管理に注意し、登校時に健康状態の確認と声掛けをしながら手指消毒を実施している。教室ならびに校内施設について消毒を含めた衛生管理の徹底を図っている。また校内にも感染予防に関するポスターの掲示や消毒用備品等を置き健康危機管理に努めている。	感染症のみならず、変化の多い状況に合わせて体制を整備していく。

8 学生の受入れ募集

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか	A	各高等学校で行われる進路ガイダンスへの参加、広報職員の高校訪問を通して、学校説明や在籍している学生の状況を報告。学校の情報を正確に提供するように努めている。	
② 学生募集活動は適正に行われているか	A	学生募集活動においては、正確に学校や学科の特徴、取得資格、就職状況を説明し、ミスマッチなく進路として選択をしてもらえるよう努めている。また、学校ホームページおよびパンフレットにも最新の実績を掲載し、誇張すること無く募集活動を行うよう配慮をしている。	引き続き、適正な学生募集活動に努めると共に、高等学校等接続する機関に対しての情報提供をさらに強化していく。
③ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報が正確に伝えられているか	A		
④ 学生納付金は妥当なものとなっているか	A	学生納付金は学則に則り募集要項に記載・徴収している。教材費や行事費等の実費についても、オープンキャンパス等で納入期日やおおよその金額を公表し、徴収時には明細を添付している。	
⑤ ソーシャルネットワークサービス（SNS）など学生のアクセスしやすい通信手段が整備されているか	A	Instagram、LINE等のソーシャルネットワークを活用して情報発信している。	コロナ禍においてもSNSの活用は有効的であったため、今後も発信方法の工夫をしながら継続していきたい。

9 財務

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	A	予算に基づく適切な収支バランスを保持している。	引き続き予算に基づく適正な収支バランスを保持できるよう、今後の18歳人口の減少などに対応する入学者確保に努めていく。
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A	新年度が始まる前に予算・収支計画を作成し、理事会・評議員会で承認を得ている。	
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	A	決算については、監事の監査を受け、理事会・評議員会で承認されている。	
④ 財務情報公開の体制準備はできているか	A		

10 法令等の遵守

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A	法令を遵守し運営にあたっている。	引き続き法令を遵守した運営にあたる。
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	B	パソコン上での個人情報は、セキュリティーのかかったサーバーで保管、管理している。書類については、鍵のかかるキャビネットに保管している。	個人情報についての危機管理は、変化の速い社会情勢にあわせて見直し、保護に努める。
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A	自己評価の実施を経て、改めて問題点と向き合い、より改善に努められる環境になってきている。	
④ 自己評価結果を公開しているか	A	公開している。	

11 社会貢献・地域貢献

A:適切・B:ほぼ適切・C:やや不適切・D:不適切・E:該当なし

自己評価項目	現状の認識および評価		課題と今後の改善策
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A	地域社会と連携をとりながら社会貢献・地域貢献に積極的に取り組んでいる。	
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	B	コロナ禍の制限が緩和され、マラソンの救護活動などのボランティアが再開され、学生も積極的に参加している。	学生ボランティア活動の支援体制を検討していく。
③ 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	A	感染症拡大防止対策を行い、地域住民に対する公開講座や委託授業を実施している。	環境の変化に応じて地域に対する公開講座等が行えるよう、引き続き体制づくりに努める。

2022 年度

学校関係者評価報告書

学校法人 晃陽学園

つくば栄養医療調理製菓専門学校

学校法人 晃陽学園 つくば栄養医療調理製菓専門学校は、自己評価報告書に基づき、以下の通り学校関係者評価委員会を実施致しました。

1. 開催概要

(1) 第1回学校関係者評価委員会

日 程 2022年9月16日(金) 13:00~15:00

場 所 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館 4F 研究室

(2) 第2回学校関係者評価委員会

日 程 2023年2月24日(金) 13:00~15:00

場 所 つくば栄養医療調理製菓専門学校 新館 3F 階段教室

2. 出席者

(1) 第1回学校関係者評価委員会

氏名(所属)	選任理由
海老原 幸二(稲敷広域消防本部)	企業・関係団体
村山 正利(公益社団法人 茨城県獣医師会)	専攻分野に関する有識者
伊藤 久美子(茨城県立中央病院 栄養管理科、公益社団法人 茨城県栄養士会副会長)	企業・関係団体
湯原 幸子(茨城県立つくば看護専門学校)	専攻分野に関する有識者
松浦 希(社会福祉法人つつみ会)	卒業生
高田 峰夫	卒業生
一石 肇	在校生保護者
悦喜 浩美	在校生保護者

(2) 第2回学校関係者評価委員会

氏名（所属）	選任理由
海老原 幸二（稲敷広域消防本部）	企業・関係団体
村山 正利（公益社団法人 茨城県獣医師会）	専攻分野に関する有識者
伊藤 久美子（茨城県立中央病院 栄養管理科、公益社団法人 茨城県栄養士会副会長）	企業・関係団体
湯原 幸子（茨城県立つくば看護専門学校）	専攻分野に関する有識者
松浦 希（社会福祉法人つつみ会）	卒業生
悦喜 浩美	在校生保護者
浅野 百合子	在校生保護者

3. 本校職員

氏名（役職）	氏名（役職）
今井 恭子（校長）	赤星 康彦（副校長）
川島 邦子（副校長）	野本 英雄（救急救命学科長）
斎藤 達也（専門調理師・調理師学科長）	矢口 旭（製菓製パン学科長）
山本 勝也（事務長）	江口 千佳（総務課長）
三浦 正克（総務事務員）	小貫 翔平（広報室長）
広瀬 賢二郎（広報課長）	丸尾 佳代子（教務課長）

4. 学校関係者評価委員からの意見、提言等

自己評価項目	意見、提言等
1 教育理念・目的・人材育成像	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が育成する人材像（キャリアデザインができる力の育成やグローバルに活躍するリーダーの素養の育成など）を具体的に示した方が良い。探究的な学びの重視などの内容を明記するとより分かりやすいのではないか。
2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・意見、提言は特になく、適正と判断する。
3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業はコロナ感染症がなければ実施されていない可能性もあり、対面授業だけでなく様々な形態で教育をするという観点からは良い経験になったのではないか。 ・引き続き多様な教育形態を研究しながら継続していくことは良い対応と思われる。 ・近年推奨されているアクティブラーニングを専門学校にふさわしいかたちで取り入れていく必要があるのではないか。 ・学生アンケートを4年間継続して実施しているが、その結果は貴重なものであり特にマイナス思考の回答をしている部分のフォローが大変と思われるが、学校運営に学生ニーズをしっかりと活かしていただきたい。
4 学生指導	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な講習会を開催して社会経験や学生の意識向上を図っていく必要がある。 ・栄養士学科で開催された卒業生との交流会に卒業生として参加したが、社会人になってからの不安や悩みを抱える学生や、実際の仕事内容が理解できない学生が多く見受けられたので他学科でもこのような機会を設けていければ離職率も下がるのではないか。
5 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に不合格になった学生をしっかりとフォローして合格率を上げるように努力していただきたい。

6 学生支援	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
7 教育環境	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
8 学生の受け入れ募集	・意見、提言は特になく、適正と判断する。
9 財務	<p>・価格高騰が著しいが次年度から学生の負担は増えるのか。</p> <p>（光熱費や食材費が高騰しているため給食費や包丁などの購入費を若干値上げしたいと考えているが、運営努力をして学費の大幅値上げなど学生の大きな負担が生じないように考えている。）</p>
10 法令等の遵守	・意見、提言は特になく、適正と判断する。

以上、頂いたご意見をもとに、内容の改善、より一層の教育を行い、今後の学校運営に努めてまいります。